

川の本



夏休みスケジュール

1. しめじたい
2. ベんきょう
カクレもする
3. おてつぱい
をみる
4. それから
おとひ

GRAND MAN

MAMA

ムシ

さんすう
かいたろう

kappa no gakko

なぞの正体をあばけ！

問題

あばれ者だが、はたらき者で
 大昔からしつこく山から土を運びつづけ
 とうとう平野までつくったものがある
 このなぞの正体は何か？



今でも
 こいつはいるぞ
 君の町にも
 きっといるぞ
 さがしてみよう

答えを
 おしえちゃおうかな
 ヒントをよめば
 わかるはずよ

さて、なぞの正体がわかったかな？

答えは
 見せてやらないよ



- ヒント1 このあばれ者の体は水でできている。
- ヒント2 山から海までつづく長い体をしている。
- ヒント3 ふだんはおとなしいが大雨や長雨がつづくときあばれはじめる。
- ヒント4 あばれると山や谷の土をけずりつづけては運びはじめる。
- ヒント5 こんな時、人々は「洪水こうすいだあ」とさわぐ。
- ヒント6 洪水は大昔からなんどもくりかえされ、そのたびに運ばれてきた土が、つもりつもって平野ができた。



おしえちゃだめよ

どうして川の石は
上流では「ゴツゴツ大きな石」なのに
中流では「丸みのある石」になって
下流になると「こまかな砂やドロ」に
なるのかな？



洪水の力はものすごくてね、自動車より
重い石でもコロコロと、おし流すほどだ
が、上流から下流にむけて、流れる力が
だんだんと弱まると、重い石から川底にと
りのこされていくんだよ。
だから軽い小さな砂や土ほど遠くまで運
ばれるというわけさ。そしてね、上流でゴ
ツゴツ角ばっていた石も、流れていくうち
にぶつかりあって角がとれ、少しずつ小さ
く丸くなり、最後は細かな砂になるとい
うわけだよ。

川ができるのも
オレさまのおかげという
ことを忘れるな！



川の流れの三つの働きが平野をつくった

- 1 侵食（しんしょく） 大地をけずる働き
- 2 運搬（うんぱん） けずりとった土砂を
運ぶ働き
- 3 堆積（たいせき） 運んできた土砂をつ
もらせる働き

この3つの働きで、つくられた平野を
沖積（ちゅうせき）平野というんだ。
日本の平野のほとんどは川がつくった沖
積平野だよ。おかげで水田もできた、町
もできたんだ。川に感謝しなくちゃね。

どうして洪水のとき
川はにこるの

川の水に砂や土が
まざるからよ



あね 姉川と妹川

しもつと

滋賀県 姉川

むかし、伊吹(いぶき)山のふもとに、それはそれは仲の良い姉と妹が二人きりで住んでおりました。

「あの二人娘は何をするのも、どこへ行くのも、いっしょじゃよ。あんなに仲の良い姉妹(しまい)は見たこともないのう」

村の人たちはいつもあたたかく二人を見守っておりました。

ある年のことです。伊吹山いつたいに降り出した雨がいつこうにやみません。くる日もくる日も雨ばかり、とうとう半年間にもなりました。それでも雨は降り続けておりました。その雨を伊吹山の森は、すいこめるだけすいこみ、山のお腹は水でぶくぶくにふくらんでいました。

「伊吹山のお腹がいくら大きくてもな、これいじょう雨が降り続けば、はれつするかも知れんぞ」

「そうになったら大変じゃ。大水が出て田んぼも家も流されてし

まうがな。困った困った」

村の人たちは、どうして良いかもわからず、ただハラハラオロオロするばかりです。

そんなすがたを見て仲の良い姉妹の心は痛みました。

「このままでは、ほんとうに大洪水(だいこうすい)がおり、だれひとり助からないかも知れないわ」

「姉さんなんとかして村の人たちを助けましょうよ」

ひそひそと相談していた二人はなにか決心すると、思いきったように家を飛び出し伊吹山のお腹をめざして登っていきました。山の地面はふくらんでぐしょぐしょです。二人はどろだらけになって、しげみをかきわけかきわけ登りました。するとつぜん山の森からぬけだして大きな池の前になりました。池の水はもりあがるほどにいっぱい、まわりの土手はぶるぶるとふるえていて、いまにもはちきれそうです。

「姉さんが伊吹山のお腹なのね」

「そうよ、ぐずぐずできないわ、いよいよ私たちの出番がきたのよ、さあ行くわよ」

「はい姉さん」

二人はめくばせを合図にさっと身をひるがえして池に飛びこんで行きました。

と、まもなく、一面が見えなくなるほどの水しぶきが吹き上がり、中から二匹の竜(りゅう)が現れたのです。その胴体(どうたい)はどうしたいかは、すきとおるような銀色のうろこでキラキラかやいています。美しい竜に変身した姉と妹でした。

そして姉竜と妹竜はふたてにわかれて山を下りはじめたのです。そのあとを追うように伊吹山のお腹にたまった水も、ふたてにわかれて流れ出し二本の川になりました。しかし、これまでいつもいっしょだった二人です。はなればなれになってみると、姉竜は妹が心配でなりません、妹竜は姉が恋しくなりません。山から下りると姉竜は妹を、妹竜は姉をさがしてまわり平野のはずれでやっと出会うことができました。

二人はよろこんででき合うように二つの川になって仲良く琵琶湖(びわこ)へと流れこんでいったのです。

おかげで大洪水はおこらず村はたすかりました。人々は姉竜のとおった川を姉川、妹竜のとおった川を妹川と呼んで今でも愛し親しんでいるのです。



お話の川と人々

滋賀県の湖北(こほく)地方を代表する二本の川があります。「姉川」と「高時(たかとき)川」です。お話にでてくる妹川とはこの地方にのこる呼び名で、実は「高時川」のことです。姉川の支川の中では最大の高時川を妹になぞらえて妹川とも呼ぶようになったのかも知れません。

さて「姉川と妹川」のお話は姉妹の竜(りゅう)が主人公です。昔から川は竜にたとえられることが多いのですが、洪水をおこす川がまるで竜のように激しくて恐ろしい姿に見えたからでしょう。実際に姉川も高時川もたびたび洪水をおこしては村人を苦しめてきた歴史があります。ところがお話の中では二つの川を決して悪者にしたり、にくんだりはしていません。それどころかやさしい姉と妹にたとえています。そして姉川と高時川(妹川)があればこそ、どんなに長雨が続くとも、伊吹山にあふれる水は琵琶湖へと流しだされ、大洪水から救われるし村人も助かる、ということになっています。

竜や洪水の話は数多くありますが、洪水をおこした川をこれほどまでたたかなくない川として愛し親しんできたのにすぎないと思います。そう感じさせられるお話です。



夏の川には、楽しいところがいっぱいだ。



川はよいとこ
いちどはおいで

キャンプ

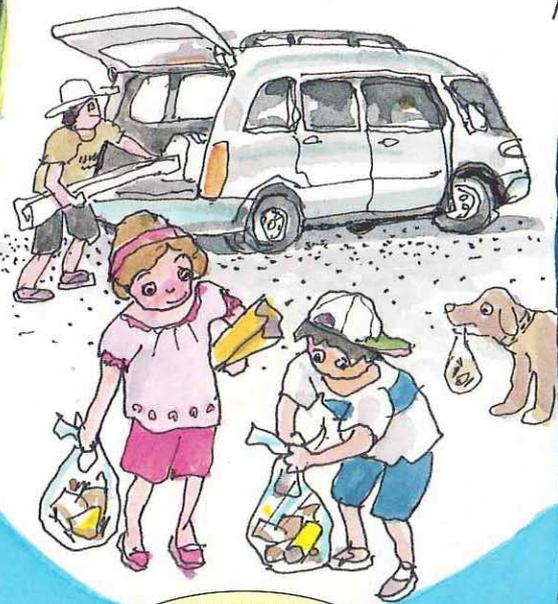
イシガメ

モグズガニ

けい流つり

ラフティング

ほくことは
うら表紙を見てよ

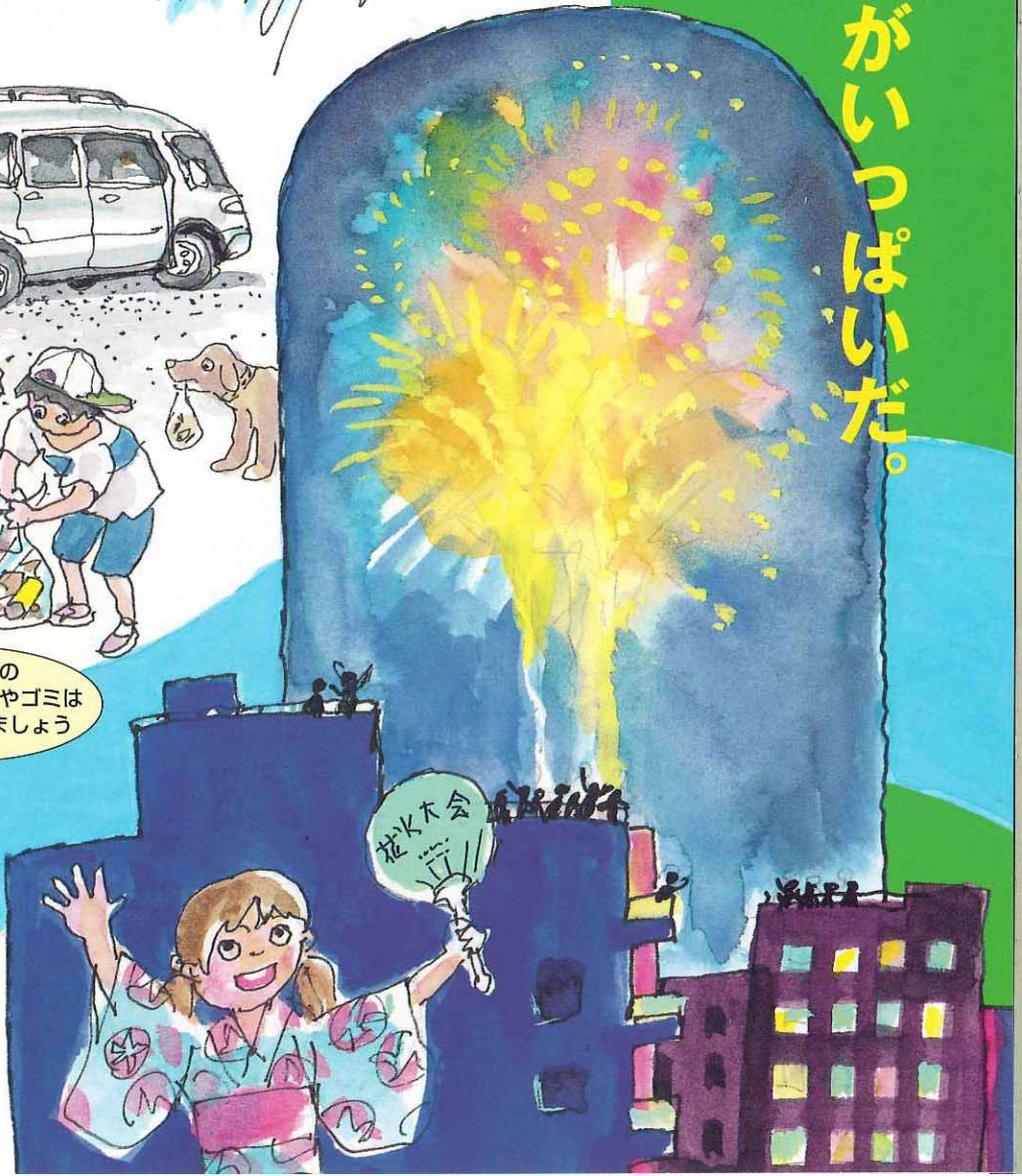


自分たちの
持ってきたものやゴミは
必ず持ち帰りましょう

みんなの川、みんなで大切に



洪水のときは
水につかって流れを
弱めるんだ。牛が角を
だしているみたいだね



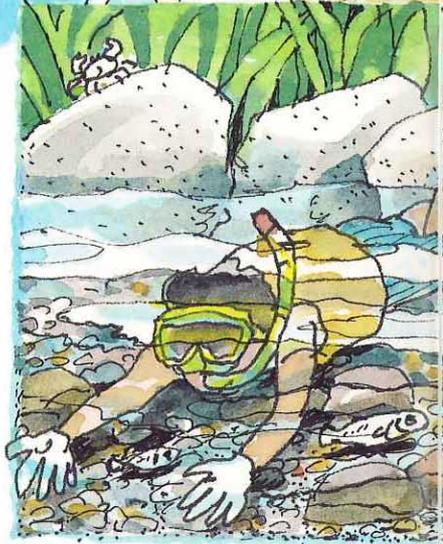
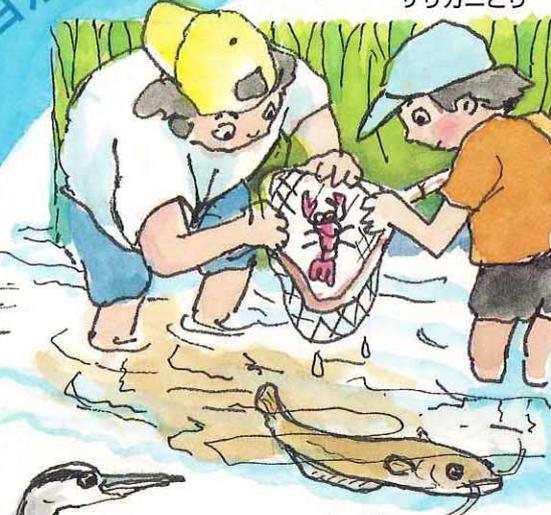


ホタル



川の自然とあそぼうよ

ザリガニとり



もぐってみると、川底っておもしろい



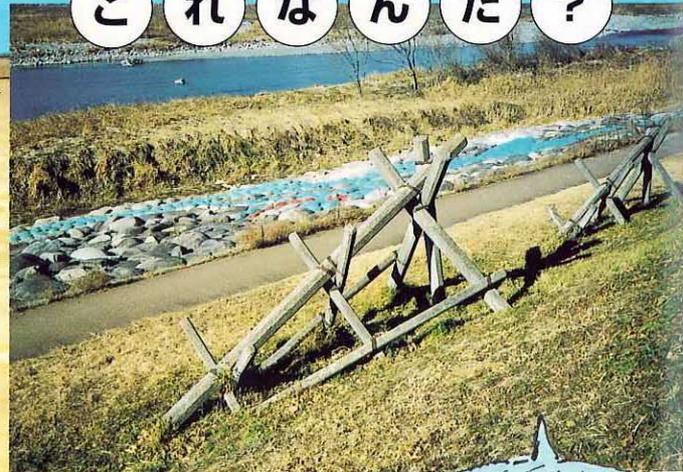
カイツブリ

ナマス



アオサギ

これなんだ？



聖牛

「せいぎゅう」または「ひじりうし」と読みます。水制(すいせい)の一種で、川の流れを弱めたり、流れの向きをかえたりして、洪水(こうすい)から堤防を守るのが目的です。

聖牛には似た形がいくつもありますが、これらをまとめて牛類(うしるい)と呼ばれています。今ではコンクリート製の牛類も多く見かけます。

ふん。オレあんなにやせっぽちじゃないね

にてるよ



川の仲間たち

かわいい川辺の生き物 かやねずみ

ぼくは世界最少のネズミといわれているんだ。たしかにチビだよ。しかし自分でいうのもなんだけど、ぼくはハンサムだし、きょうだし、きれい好きだ。その上、畑をあらすなど人のめいわくになることはしないよ。

食べ物はエノコログサなどイネ科の植物やイナゴなどの昆虫だ。くらしているところだって河原などのススキやオギなどが生い茂る場所だよ。ススキやオギは、茎(くき)や葉が長くてじょうぶだから、これをじょうずにからませて巣をつくるのだ。

茎がのびればその分、巣の位置は高くなる。そよ風にゆらりゆれて実に快適だよ。しかもヘビなどの敵におそわれにくいというわけさ。

だからさ、ススキやオギなどが茂る川辺の自然を大切にしてほしいんだよ。お願いするよ。

(ネズミ目ネズミ科)
体長(鼻の先から尾のつけねまで)
約5cm~8cm



直径10cmくらいの巣



お腹は白くかわいいが見つけてもつかまえないでね。
自然の中で生きたいのだ。

河川愛護月間

7月1日→31日

7月7日は川の日です



財団法人 河川環境管理財団

Foundation of River & Watershed Environment Management

(〒104-0042) 東京都中央区入船1丁目9番12号
TEL (03) 3297-2600 (代表) <http://www.kasen.or.jp/>